

おたより くらぶ

- ン誌によりたくさんの人々とのつながりやら市川の良さを再発見させていただきました。続けることのむずかしさ。よくぞ続けられてきたこと、今回の特集号で、なおさら心新たに、また、人との出逢いの楽しさを探していきましよう。(袖ヶ浦市・島村さん)
- ▼5月号の「いちかわネット」。高圓寺の藤まつり。こういうリアルタイムの情報ほうれしい。桜とかどうしても早過ぎたり遅すぎたりすることがあるので、高圓寺まで歩いていけるので、GWにピッタリの情報でした。(原木・山田さん)
- ▼震災のなか、40周年記念号を出版されたこと、びっくりしました。市川のタウ
- ▼5月号の「人インタビュー」川さん
- をしっかり読みました。災害後ですので、市川の態勢は?と気になりました。阪神、東北の震災にも京葉ガスのスタッフが応援されていたとのこと、応援とともに対処方法等を常に引き継いでいらっしやることに安心しました。(南八幡・早川さん)

40周年記念

続「おお市川のまち」よ

ありがとうメッセージ



地上百五十メートルの市川駅前
前の展望デッキからの景観。南に
東京湾、その彼方に房総の山々。
西に江戸川と都心のビル街。北に
は真間山の森、彼方には筑波山が。
そして東にはかつての砂州にク
ロマツの連なる市街地が見渡せ

る。この市川が歩んできた人と自然の変遷を振り返り、現状を記録し後世に残そうと、今、市川市史「自然編」の編さんに取り組んでいる。お隣の鎌ヶ谷市では、二〇〇〇年に資料編Ⅶ「自然」、本年三月に『市史・自然編』を発刊した。文化都市を標榜する市川市にあって、自然誌の発行は今日的な課題の一つである。地球は今、人と自然の調和を強く求めている。月刊

刊いちかわ四十年」の歴史は、市川の文化・芸術・教育・歴史・産業、人材などを市民目線で紹介する、いわば「知の交流」の場あり、その果たした役割ははかり知れない。今後のさらなる発展を期待すると共に、市の自然遺産の保護と紹介の場でもあって欲しいと願うものである。(唐沢孝一/NPO法人自然観察大学副学長・カラサワールド自然基金代表)